



京都府遊技業協同組合  
「京遊協福祉車両贈呈」事業



京都府遊技業協同組合  
理事長  
白川鐘一さん



京遊協創立50周年記念式典での贈呈式

献血運動支援のために  
献血車両を贈呈する

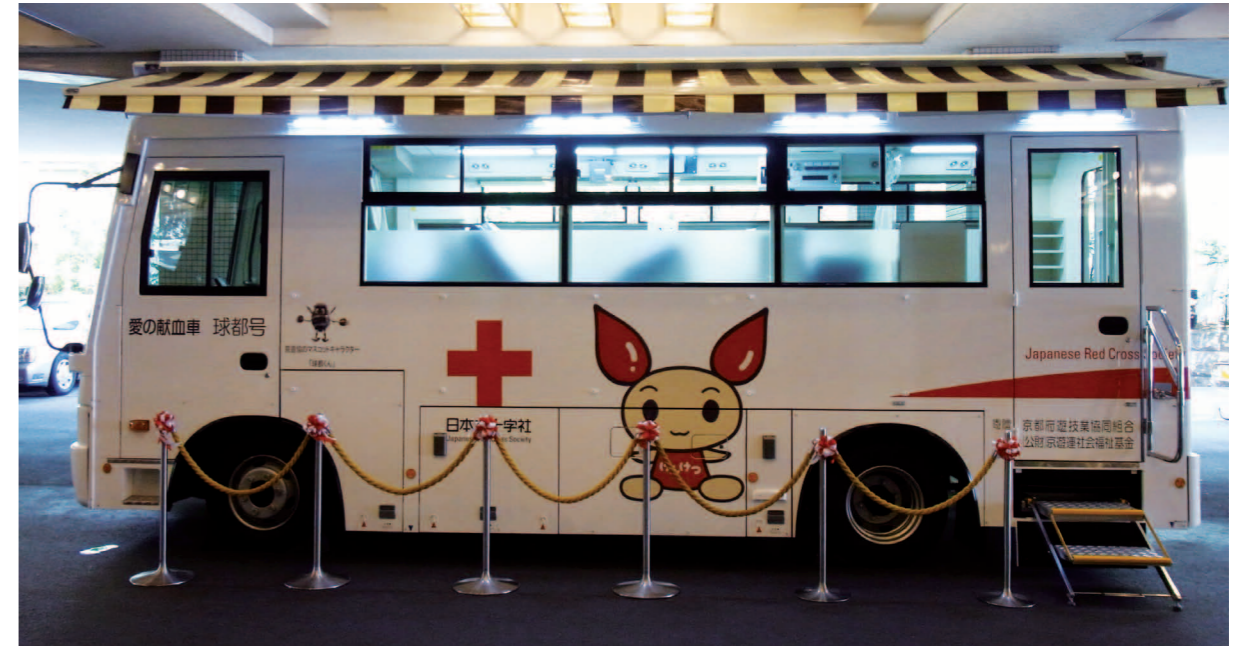
組合創立50周年を記念して献血バスを贈呈

京都府遊技業協同組合(以下、京遊協)では、娯楽産業としての社会的責任を果たすため、お客様への感謝の気持ちに徹してさまざまな活動を行うとともに、収益金の一部を地域社会に還元・貢献する活動に取り組んでいる。また、1987年には公益財団法人「京遊連社会福祉基金」を設立し、毎年、京都府をはじめ、京都市などの地方自治体、社会福祉協議会、各種福祉団体などに対して支援のための寄付金や助成金を贈っている。

昨年の主な活動を挙げると、第15回社会貢献事業チャリティゴルフ大会の開催、第17回視覚障害者オープンゴルフ京都大会の大会運営費支援およびマーカーボランティアの協力、福知山市・京都府共同募金会・京都新聞社社会福祉事業団・社会福祉法人・NPO法人などへの社会福祉活動費の助成、福祉車両の贈呈など、実に多岐にわたっている。

さらに、昨年の特筆すべき社会貢献事業として、京都府赤十字血液センターに対する献血バスの寄贈が挙げられる。これは、京遊協創立50周年を記念して、「社会貢献活動を形に残したい」という思いのもと、小型献血バス(移動採血車)の購入資金の一部となる1750万円を寄贈したものである。狭く入り組んだ道路が多い京都市内では全国仕様の大型バスでは通行できない場所があるうえ、それまで使用していた小型バスの老朽化が進んでいた。そのため、同センターでは小回りが利く新たな小型バスの整備を進めていたが、その資金に苦慮していたところに、京遊協が協力を申し出る形で実現した。

5月29日に開かれた贈呈式には、来賓や組合員など約250名が参加。白川鐘一理事長から京都府赤十字血液センターの辻所長に目録とゴールドキーが手渡され、それに対して日本赤十字社から金色有効章が京遊協に贈られた。当日の様子は、京都新聞やKBS京都テレビのニュースなどでも大きく取り上げられた。また、贈呈式当日には、組合員30名の協力による献血も行われた。さらにこの贈



京遊協から京都府赤十字血液センターに寄贈された献血バス「球都号」

呈の功績が認められ、京遊協では「公益のために多額の私財を寄付した者」が対象となる紺綬褒章を内閣総理大臣から受章した。

献血車両贈呈を機に献血協力にも取り組む

贈呈した小型献血バスの車体側面には京遊協のマスコットキャラクターである「球都くん」のイラストが描かれ、バスの愛称も「球都号」となった。車両ナンバーは「777」で、コンパクトな外見にもかかわらず、車内はゆったりとしていて、3台の献血ベッドが設置されている。京都市を中心に、向日市、長岡京市、宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、木津川市、乙訓郡、久世郡、綴喜郡、相楽郡など、主に京都府南部を巡回している。

この贈呈をきっかけに、今年3月16日には、京遊協および同青年部会による献血ボランティア活動が京都市内の四条大宮ロータリーで実施された。当日は、オリジナルのスタジアムジャンパーに身を包んだ青年部会のスタッフがティッシュペーパーやボールペンを配布しながら、通行人に献血への協力を呼びかけた。会場には2台の献血車両がやってきたが、その1台は京遊協から贈られた球都号だった。当日の献血には、仕事時間を調整して駆けつけた組合員ホール従業員のほか、来店客、通行人など50名以上が協力した。

この活動に対して、白川理事長は、「継続していくことが大事。今後は青年部会が中心となり、新たな社会貢献活動の柱の一つに育ててほしい」とコメント。また、白川智久青年部会長も「年1回の活動だが、地域に根付くようにしていきたい。今後は業界以外の一般市民にも広く呼びかけていきたい」と話している。

なお、京遊協ではこれとは別に従来から続けてきた福祉車両の贈呈事業として、昨年も社会福祉法人京都身体障害者福祉センターの京都市洛南身体障害者福祉会館と京都市山科身体障害者福祉会館に各1台、福祉車両を贈った。



献血車両贈呈の功績が認められ、内閣総理大臣から京遊協が紺綬褒章を受章